

## 編集後記

新しい年を迎え、巻頭には本学会名誉会員の郡山直氏による「馬の新年の歌」の詩を掲載した。2014 年は明るい希望を胸に抱いて皆で元気に走り回りたい。今号は R. H. Blyth について上田邦義会長と川田基生氏の 2 名から寄稿があった。Blyth は俳句を世界に広めたことで有名だが、今上天皇陛下（当時、皇太子殿下）にご進講した家庭教師の一人でもあった。Blyth の人と為りは上田会長の著書『ブライズ先生、ありがとう』（三五館、2010 年）に詳しい。その中で、床に落ちたペンを「身分が高い人が拾うべきだ」と言って皇太子殿下に「ノブレス・オブリージ」を教えたというエピソードが、会長の著書からの引用で年末の『週刊朝日』誌（12 月 27 日号）の巻頭グラビア頁に紹介された。Blyth に関心を持たれた方は、ぜひこれらもお読みください。なお、川田氏のエッセイでは、Blyth が川柳も研究していたことが論じられている。演劇が悲劇のみで論じられないように、能楽が能と狂言で論じられるように、Blyth の俯瞰の眼は、俳句と川柳の両者を見ていたのだろうか。今号はほかにも、武士俣氏、堀上氏、ハウズ氏、木下氏から興味深い投稿をいただいた。いずれも洋の東西を越えて文化を語っており、文化の交流・融合を思う気持ちや平和を願う気持ちに繋がるものであろう。読者諸氏がお楽しみいただけることを確信している。

さて、このところ研究発表会は、いずれも「例会」として開催されてきたが、今年は春と秋に、それぞれ関東と関西で、「大会」を開催することになった。まずは 4 月 20 日（日）に東京・江東区の東京スポーツ文化館で、春季大会を開催する。会員諸氏のご参加を期待している。参加希望者は事務局にご連絡いただきたい。

最後に、前ページ（「事務局より」）にあるように、昨年、本学会の名誉会員であった山波言太郎氏と足立禮子氏が亡くなられた。お二方は事務局にも何度か手紙をくださり、本学会へのご理解と激励の言葉をいただいた。哀悼の意を表し、謹んでご冥福を祈ります。（編集子）

---

---

### 『融合文化研究』第 20 号

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

発行所 〒192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 菊地方

国際融合文化学会（ISHCC）事務局

発行人 上田 邦義

発行日 2014(平成 26) 年 2 月 28 日 ホームページ公開、2014 年 12 月 10 日 印刷版発行

印刷所 合同印刷株式会社

Published by: International Society for Harmonization of Cultures & Civilizations (ISHCC)

c/o Kikuchi, 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

e-mail: ueda.kuniyoshi@nihon-u.ac.jp Tel: 0557-82-1411(Ueda)

---

---